

町議会 新たな出発

このたびの議会選挙で、再度議席を頂くことになり、責任の重さを痛感しております。これからも、町民が帰りたいと思える環境整備、今なお町外で暮らす被災者への支援、地場産業の復興、今後も続く東京電力の廃炉工程への監視、風評について暮らせる町を目指して頑張ります。

このたびの議会選挙で、再度議席を頂くことになり、責任の重さを痛感しております。これからも、町民が帰りたいと思える環境整備、今なお町外で暮らす被災者への支援、地場産業の復興、今後も続く東京電力の廃炉工程への監視、風評について暮らせる町を目指して頑張ります。



高野 武
(請 戸)

先般の改選において、3期目を務めさせていただくことになり、責任を痛感しております。今後の町の将来が決まっていく重要な4年間なので、町民の代表として、意見や要望を町政に反映させたいと考えています。今まで通り、町民目線で、「第2期復興・創生期間」を未来のため全力で取り組みますので、変わぬご指導のほどよろしくお願いいたします。



平本 佳司
(立 野)

このたび、2期目の議員職を務めさせていただくことになります。大震災、原発事故から10年が経ち、課題はまだたくさんあります。しかし、課題はまだたくさんあります。町民の皆さまに安心して生きてもらう為に、一つ一つ前向きに取り組んで参ります。そして次の世代へ、この浪江町の素晴らしい歴史や文化を継承していくよう、尽力させていただきます。



武藤 晴男
(南津島)

今回、無投票で3期目となりました。しかし、いつまでも初心を忘れず、これからも町民の声を町政に生かせるように取り組んで行きたいと思います。



山本幸一郎

(末 森)

大震災と原発事故により避難生活が既に10年が経ちました。今もまだ浪江町民が1割もふるさとへ戻つてない現実を重く受け止め、対処していかなければなりません。私たちはどこに避難生活しているかも、浪江町民だという誇りをもつて歩む事が大切です。

このたび、4期目の議員職を務めさせていただきました。これまでに様々な施設ができ、復旧から復興へと進んできました。今後は駅前周辺整備等を含む町の顔を明確にし、第三次復興計画の実現を必ず成し遂げ、各業種人が生業として充実でき、「住んでいい・みたいなまちづくり」をしたい・みたいまちづくりを実現を必ず成し遂げ、各業種で取り組みます。

このたびの議会選挙で、再度議席を頂くことになり、責任の重さを痛感しております。これからも、町民が帰りたいと思える環境整備、今なお町外で暮らす被災者への支援、地場産業の復興、今後も続く東京電力の廃炉工程への監視、風評について暮らせる町を目指して頑張ります。



佐々木勇治
(権現堂)



半谷 正夫
(大 堀)



松田 孝司
(谷津田)



山崎 博文

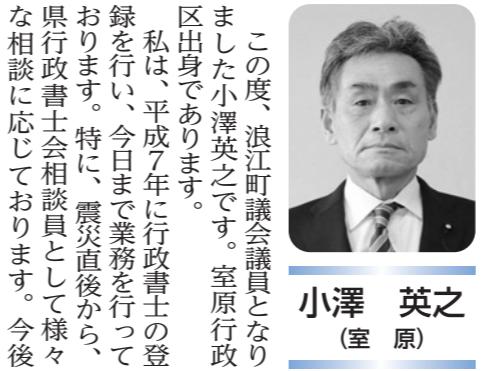
(権現堂)

原子力災害被災地域の当町は、発災後、除染やインフラ復旧、生息環境の整備が進み、4年前には一部地域の避難指示が解除となりました。しかし現状は厳しく、町内居住者は、震災前の人口の約1割に満たず、多くの町民が県内外での避難生活を余儀なくされています。第2期復興・創生期間を迎えて、これから本格復興へと新たなステージに入りました。3期12年の議員経験を活かし、様々な課題解消に全力を尽くします。

12年の空白の中で町のあり方、行政についてしっかり見てきます。改めて何を為すべきかを考えたいと思います。

4月18日に行われた浪江町議会議員一般選挙において、16人の住民の代表が選ばれました。今後の町づくりに向け、皆さんの抱負を紹介します。

(五十音順・敬称略・原文のまま掲載)



小澤 英之
(室 原)



4月19日 町議会議員一般選挙当選証書付与式

は、皆様のご意見をお聞きし、また行政書士としての経験を活用することに取り組んでまいりたいと思いますので、皆様のご指導の程宜しくお願ひ致します。

今回の選挙は東日本大震災、原発事故から10年の節目の年、そして一部地域を除き、「避難解除」され4年の節目の年でもあります。これまでの10年間は「町残し」の10年でしたが、これらの10年間は「持続可能な町づくり」を目指さなければなりません。

これまで国と、公共事業等多くの施設が建設されました。今後は、将来8000人のまちづくり、浪江町の財政に見合った町づくりにしていかなければなりません。いわゆる「持続可能な町づくり」だと思います。町民の皆さんと協力して、震災直後から、行政書士会相談員として様々に相談に応じております。今後は、この度、浪江町議会議員となりました小澤英之です。室原行政区出身であります。私は、平成7年に行政書士の登録を行い、今日まで業務を行つておりまます。特に、震災直後から、県行政書士会相談員として様々に相談に応じております。今後は、皆様の真の復興、浪江町の復興に孤軍奮闘してまいります。

東日本大震災及び原発事故災害から10年が経過しましたが、未だ避難されていない帰還困難区域を抱える我が故郷浪江町。私は、議員を務める以上、4年間責任を持ち、戻って良かつた、住んでみたい浪江町を目指します。そして、町行政当局と協力をし、町民の方々の意見を拝聴し、町に古里を守る、これからも皆様と共に古里で暮らしお苦労を強いられて生きる事と思います。「ふるさとで古里を守る」これからも皆様と一緒に古里で暮らしあるす生活環境になるように心掛けて行きたいと思います。

広報なみえ 2021.6.1 (10)



このたび、4期目の議員職を務めさせていただきました。震災から10年が経過しました。私は避難解除後の12月より町内に戻り、居住しています。住んでみるとやはり浪江は良い所です。しかし、震災前には想像もつかなかった様々な困難に気づいて暮らそう」といわれるよう、全て取り組みます。

(11) 広報なみえ 2021.6.1

12年の空白の中で町のあり方、行政についてしっかり見てきます。改めて何を為すべきかを考えたいと思います。震災から10年、浪江町に戻れない方がおられると思いまが、故郷浪江の思いを持ち続け、協力して頑張っていきます。



佐々木 茂
(屋曾根)

津島訴訟の副団長や、ドローン会長として古里津島の映像を残すことことができました。地域の伝統文化の継承は喫緊の課題です。人口増や発展の為には、国際研究産業都市の誘致は不可欠です。町民の皆様の為に、頑張る覚悟であります。

広報なみえ 2021.6.1 (10)